2024 年度　長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	経営学演習（Exercises in Management） 2037-2-23-104					担当教員	生島　義英 （イクシマ　ヨシヒデ）		
科目区分	専門	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	２年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL，資格対応科目								

①　授業のねらい・概要
『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格するためには、１年次の「経営学」、２年次の「企業論」・「経営組織論」・「経営管理論」・「経営課題」および経営学関連科目で学習した内容を確実に理解するとともに、試験対策として一定の“テクニック”を身に付けるが不可欠である。 そこで、本演習では毎週過去に出題された問題を解き，理解度を確認する。解けない問題を復習することにより，経営学を理解することに努める。1 年次、2 年次に学修した内容の問題を解くことにより、経営学を体系的に理解できたことの証しとする。なお、本演習の内容は、『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」の試験範囲全てに該当する。
②　ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力
③　授業の進め方・指示事項
①　マネジメント検定試験Ⅲ級の過去問題を解く ②　グーグルフォームへの入力と自動採点 ③　解答結果に基づきできなかった問題の復習 ④　全体振り返り
④　関連科目・履修しておくべき科目
「経営学」・「企業論」・「経営組織論」・「経営管理論」・「経営課題」を履修完了していることが前提となる。
⑤　テキスト（教科書）
経営学検定試験協議会監修・経営能力開発センター編（2023）『マネジメント検定試験公式テキスト（Ⅲ級）　経営学の基本』第７訂、中央経済社
⑥　参考図書・指定図書
授業中に適宜指示する。
⑦　評価Ａに対応する具体的な学習到達目標の目安
（ｉ）『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。

⑧　ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
（ｉ）『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。	検定試験で80%以上得点できる。	検定試験に合格できる。	検定試験問題を 50%以上正解できる。	検定試験問題を 30%以上正解できる。	検定試験問題を 30%未満正解できる。

⑨　学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加･意欲	その他	合計
総合評価割合	60%	25%			15%		100%
（ｉ）『マネジメント検定試験』の「Ⅲ級」に合格する知識・能力を身につける。	60%	25%			15%		100%
フィードバックの方法	正解率が低い問題について解説し，間違えた原因を学生が把握できるようにする。						

⑩　担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
「経営学」･「企業論」･「経営組織論」･「経営管理論」･「経営課題」を履修後受講することが望ましい。過去問題演習を重ねるごとに試験のコツをつかみ，復習することにより得点が上昇する。最後まで受講し，試験問題になれることが合格への近道となる。

⑪　授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	イントロダクション	経営学検定初級の実施概要および実施時期を確認する。 問題の全体傾向を把握する。	120 分
2	問題の演習：問題演習① 傾向と対策	問題演習①の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
3	問題の演習：問題演習② 傾向と対策	問題演習②の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
4	問題の演習：問題演習③ 傾向と対策	問題演習③の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分

5	問題の演習：問題演習④ 傾向と対策	問題演習④の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
6	問題の演習：問題演習⑤ 傾向と対策	問題演習⑤の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
7	問題の演習：問題演習⑥ 傾向と対策	問題演習⑥の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
8	問題の演習：問題演習⑦ 傾向と対策	問題演習⑦の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
9	問題の演習：問題演習⑧ 傾向と対策	問題演習⑧の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
10	問題の演習：問題演習⑨ 傾向と対策	問題演習⑨の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
11	問題の演習：問題演習⑩ 傾向と対策	問題演習⑩の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
12	問題の演習：問題演習⑪ 傾向と対策	問題演習⑪の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
13	問題の演習：問題演習⑫ 傾向と対策	問題演習⑫の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
14	問題の演習：問題演習⑬ 傾向と対策	問題演習⑬の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	120 分
15	問題の演習：問題演習⑭ 傾向と対策	今までのすべて問題演習の見直しと不正解問題をテキストで調べ、内容を正しく理解する。	180 分

⑫　アクティブラーニングについて
各回の演習において、まずは過去問題を解き、正解を確認後、問題に対する解答のプロセスの理解を深める。わからない問題は，教科書で調べること内容をより深く覚えることができる。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬　実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
昭和 63 年（1988 年）4 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで 31 年間民間企業に在籍し、在籍期間中は、情報システム部門においてシステム設計と運用など、物流管理部門において新規仕組みの構築と運用改善・物流教育など、人事労務管理部門において制度設計や法令変更対応、組合との交渉など、総務部門において株主総会・取締役会の事務局運営やコンプライアンスなどの業務に従事した。 実務担当者、管理職、グループ企業の取締役の経験など様々なマネジメントに携わった。

実務経験と授業科目との関連性
実務経験や部門長として管理職経験、グループ企業での役員経験を活かし、実務経験がなく、実務を想像しにくい学生に対して、より実務的に具体的に経営学全般について教授することができる。 検定試験題の内容を具体的に説明することができる。